

## 【2学期制の基本構想】

従来の3学期制という短い区切りの中では、行事・テスト・評価など、時間に追われながら慌ただしく行わなければならない傾向があり、授業では、ややもすると教え込みや知識の注入になりがちであった。しかし、2学期制の導入を機に、長い期間を活用して学習活動などが行えることで、学習本来のあるべき姿である「生徒がじっくりと考え、自ら気づき、さらに深める場をより多くもてる」という可能性が出てきた。

そこで、私たちが2学期制を通してなすべきことを次の二つと考えた。

- 2学期制という長いスパンを生かすために、学校カリキュラム全般を見直し、年間指導計画を改訂し、生徒が主体的に活動できるような授業の改善を行うこと。
- 生徒の様々な活動をサポートする支援活動の体制を整えること。

このような活動の積み重ねにより、生徒が、「分かった」「できた」喜びや、自分なりの方法でやり遂げた満足感を感じ、そこで得た考えや方法、思いを基に、互いに広め合ったり、深め合ったりする姿が見られると、私たちは期待した。そして、「知りたい」「確かめたい」「取り組んでみたい」というような意欲を高め、自らこだわりをもって粘り強く追究する過程で、確かな学力を身につけていくのではないかと考えた。

## 【2学期制の実際】

- 1 生徒主体の活動型授業へ向けての取り組み
- 2 長期休業を活用した年間指導計画
- 3 生徒の確かな学びや自主的な活動を支える支援

### (1) 「自分で創造する夏休み」の実現

長期休業（夏休み）を、生徒が自主的に考え、活動していく期間にしたいと願い、「自分で創造する夏休み」とした。夏休みの生徒の活動を支えるために、以下の取り組みを行っている。

- ① 長期休業前の支援
  - 構想カードの活用
  - アドバイス週間の設定
- ② 長期休業中の支援
  - 学習支援週間<10日間程度>**

夏休み中も、学校で自主的に苦手な分野を再度学習したり、各教科の選択課題や発展的な学習、調べ学習に取り組んだりできるように、学習支援週間を設けた。生徒は、活動計画表に記載してある各学年の教科の日程を見て参加できるようにした。

### ○**図書室の開放**

自分の目的に合わせて自学自習を行えるように、学習支援週間の期間中、午前、午後のどちらかで空調設備のある静かな図書室を開放している。わからない点ができると、学習支援の場所へ行き、教科担任に教えてもらい、また自学自習に戻りというように、有効に活用している生徒も見られる。